

ず〜 Zooっと平川

なんでもランキング くらべんみやり

食欲の秋だからこそ「エサ代ランキング」

食欲の秋到来！

この季節は動物たちの食欲も旺盛になってきます！そこで気になる1日のエサ代を紹介したいと思います。

★インドゾウ

体重約3.5tのゾウが食べるエサの量は1日で約50kg！でも、そのほとんどが乾燥させた牧草のため、食べる量にしては、お値段はそこまで高くありません。それでも約5,300円！季節によってはエサ代も大きく変動します。



No.1

食べる量も値段も
やっぱり1位！

ホッキョクグマ

肉類が主食ですが、馬肉を中心に煮干しやパン、リンゴやサツマイモを10kg近く与えています。お値段は約4,200円で、動物公園ナンバー2です！



No.2

巨体で食べるエサも
多種多様！

ライオン

肉食のライオンの主食は、馬肉と鶏肉です。鶏肉は骨までついた状態で与え、少しでも楽しみながら食べられるように工夫しています。食費は約2,100円です。



No.3

百獣の王は
肉食でグルメ！



くまのしんがー／鹿児島市平川動物公園

特集1

ルリカケス

特集2

ありがとう！ガク、コユキ！

特集3

新しい仲間がやってきた！



鹿児島市 平川動物公園

〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1

TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328

■開園時間：午前9時～午後5時（入園は午後4時30分まで）

■休園日：12月29日～1月1日

URL <http://hirakawazoo.jp/>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>

携帯サイトへ
アクセス！



編集・発行



公益財団法人

鹿児島市公園公社

〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号

TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690

URL <http://k-kouenkousya.jp>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

特集1 ルリカケス

鹿児島県の奄美大島周辺にしか生息しない「ルリカケス」。国の天然記念物にも指定されている貴重な鳥です。その不思議な魅力を紹介します。



●名前:ジェイ ●性別:オス ●年齢:4才

平成22年鹿児島県奄美大島宇検村にて保護され、奄美動物病院に緊急搬送その後、東京都恩賜上野動物園にて成長し、平成26年5月に将来の繁殖のため来園



ルリカケスはスズメ目カラス科に分類され、世界中で奄美大島、加計呂麻島、請島にしか生息していません。名前の通り「るり色」の美しい鳥で、森や林にすんでいます。エサや巣作り場所を求めて市街地まで出てくることがあります。雑食性で、昆虫やトカゲ、果実、種子などを食べ、特にカシやシイなどのドングリを好みます。繁殖期は2月～3月で、1回に2～5個の卵を産みます。平川動物公園は昭和61年(1986年)に日本の動物園で初めて繁殖に成功しました。

動物公園での一日のエサ (1羽あたり)

リンゴ、バナナ、煮イモ、煮ニンジン、オレンジ、コマツナ、ミルワーム(幼虫)、ペレット(固形配合飼料)、メジロ用すりえなど合計150g(季節により変化)



▼食べやすいように、細かくして与えます



鳴き声

ルリカケスの鳴き声は「ギャーギャー」というしわがれ声と「ミュー」、「キュワ」などの甘えたような声です。生息する林では遠くの個体同士鳴きあって、コミュニケーションをとっています。オスは鳴きまねも上手で動物公園では、たまにカラスの声をまねして鳴くことがあります。



今までの鳴きまね
レポートリー

ウグイス→ホーホケキョ！
イヌ→ワン！ワン！
カラス→カーカー
洗濯機→ゴッゴッゴッ



体の大きさ、羽毛の色

成鳥の体重は約200g、くちばしから尾の先までは約40cmあります。頭、のど、胸、翼、尾などが、るり色の羽毛で覆われています。よく観察すると体の部位ごとに異なった「るり色」をしているのがわかります。



▲いろいろなるり色があります



▲1枚の羽根に美しいグラデーションがあります

ルリカケスの1年



一時は絶滅の危機に…

その美しい羽根が帽子飾りに利用されるのが流行し、一時は大量に乱獲された時期がありました。また、マングースなどの外来種や森林伐採により生息数が減少した過去もあります。しかしながら近年、徐々に生息数が回復し、奄美大島を訪れると野生のルリカケスに遭遇することも珍しくなくなりました。ただ、生息場所が奄美大島とその周辺と限られていることから、伝染病の蔓延などで将来的に生息数の減少が危ぶまれているのも事実です。

動物公園では、鹿児島を代表するルリカケスの保護と繁殖に今後も取り組み、いつまでもるり色の美しい鳥が奄美大島で生息できるように、貢献していきたいと考えています。ぜひご来園の際には、鹿児島動物ゾーンでじっくり観察してみてくださいね。



▲ルリカケスが暮らす奄美の金作原生林

担当者：若松・鈴木

ありがとう!ガク、コユキ!

～ホワイトタイガーの旅立ち!～

平成23年11月に当園ではじめて繁殖したホワイトタイガー2頭を、平成26年6月に繁殖目的のために搬出しました。成長の過程とともに搬出の様子を紹介します。

1 ガクとコユキの誕生



▲ミルクの味になかなか慣れず心配しました

平成23年11月18日、父タイガと母コハクの最初の子として誕生しました。子どもは4頭生まれましたが、2頭死んでしまに残った2頭の生存を優先し、人工哺育で育てることにしました。

2 仲良くすくすく成長



▲2頭はいつも仲良しでした

生後約2カ月ごろの様子です。ミルクをたくさん飲むようになり、排尿、排便の調子もよくなったので、少しずつ日光浴を兼ねて外で運動を始めました。

4 かんろく 賞禄十分!?



▲体は大きくても、甘えん坊のままでした

生まれて1年がたつと体や顔つきが大人にだいぶ近づいてきました。小さい頃の方がかわいかったという声もありましたが、大きくなっても、甘えてくるので、かわいいままの存在でした。

5 立派に成長!でも…



▲鋭い眼光に森の王者の風格が漂います

2才になると見た目は大人と変わらなくなりました。立派な姿に子どものころの面影は見られないと思いきや、私を見ると無邪気に寄って来てくれました。いくつになっても育ての親は忘れないのかもしれません。

3 たくましく成長



生後約5カ月になると体が大きく成長しましたが、人工哺育のため甘えん坊になりました。大きな前足で哺乳瓶をつかむときは爪を出さず、やさしくつかんでミルクを飲んでいました。主食の肉を食べるときは、周囲を警戒し威嚇をしながら食べていました。

▲あっという間に大きく成長していきました

6 いよいよお引越し



2014年6月23日、ついにお引越し当日です。動物舎の搬出・搬入用出入口にコンテナを密着させて設置します。体も大きく力が強いので、チェーンを使ってしっかり固定します。

◀コンテナは重く頑丈にできています

7 コユキの収容



▲入らなかったどうしよう…不安がよぎります

コンテナの中へまずはコユキに入ってもらいます。暗くて狭いコンテナの中へは、なかなか入ってくれませんが、入ってくれるまでがまん強く待ちます。

10 ガクの収容完了



▲ガクも収容完了、ガクありがとう!

コユキの協力のおかげか、ガクはコユキよりもスムーズにコンテナに入ってくれました。2頭とも無事にコンテナへ入りいよいよ旅立ちのときです。

8 コユキの収容完了



なかなかコンテナへ入ってくれないコユキでしたが、お肉でおびき出してなんとか入ってくれました。一時はどうなるかと思いましたがひと安心です。

◀なんとか収容完了、コユキありがとう!

9 ガクの収容



▲ガクの収容にコユキも協力してもらいます

続いてガクの収容です。ガクが入るコンテナのそばにコユキの入ったコンテナを置き、ガクの警戒心をやわらげる試みをしました。果たして効果が表れるでしょうか…

11 別れ、そして新天地へ



▲今までありがとう! 幸せを願っています!

コンテナを慎重に積み込み、いよいよ旅立ちです。ガクは和歌山県のアドベンチャーワールドへ、コユキは兵庫県の姫路セントラルパークへ出発です。近くに遊びに行かれた際には、ぜひガクとコユキに会いに行ってくださいね!

ありがとう! 元気でね!

担当者: 知屋城、秋元



～この夏、平川動物園にやってきた新しい仲間を紹介します!～



カリフォルニアアシカ

鯨脚目アシカ科

分 布 北アメリカ大陸西岸

名 前 ミュウ

性 別 メス

生年月日 平成11年6月23日生

来 園 日 平成26年7月17日

山口県周南市徳山動物園からやってきました。来園当初から落ち着きがあり、穏やかな性格をしています。オスのコウスケとの子どもを期待しています。

hirakawa zoological park



クロジャガー

食肉目ネコ科

分 布 北アメリカ大陸南部、南アメリカ大陸

名 前 ボスキ

性 別 オス

生年月日 平成25年11月26日生

来 園 日 平成26年7月17日

神戸市立王子動物園からやってきました。まだ体が小さくて幼く見えるかもしれませんが、すぐに大きく、たくましく成長して、勇ましい姿を見せてくれるはず。

hirakawa zoological park



ベンガルヤマネコ

食肉目ネコ科

分 布 東南アジア、南アジアなど

名 前 マド

性 別 オス

生年月日 平成23年4月16日生

来 園 日 平成26年7月8日

東京都恩賜上野動物園からやってきました。野生のイヌ・ネコゾーンにいる動物の中で体が1番小さいですが、体の斑点・縞模様はインパクトがあり、見応えがあります。

hirakawa zoological park



丸くなった様子

マタコミツオビアルマジロ

被甲目アルマジロ科

分 布 ブラジル、ボリビアなどの南米大陸

名 前 ソノ

性 別 メス

生年月日 平成24年5月3日生

来 園 日 平成26年6月23日

兵庫県の姫路セントラルパークからやってきました。最大の特徴は敵におそわれたときに体を丸めて身を守ることです。体の外側は鎧のように皮膚が硬くなっています。アルマジロの中で完全に丸になれるのはミツオビアルマジロの仲間だけです。

hirakawa zoological park



ハウシャガメ

カメ目リクガメ科

分 布 マダガスカル島南部

名 前 トゥク

性 別 オス

来 園 日 平成26年7月17日

山口県周南市徳山動物園からやってきました。名前の通り放射状に模様が入り、背中の中甲が高く盛り上がっているのが特徴です。目立つ模様をしていますが、草原の中では保護色の役割をしています。果実や草を主食としているため、バナナやリンゴ、コマツナなどをエサとして与えています。ハウシャガメの中では大きな個体ですが、同居するアルダブラゾウガメと比べるとかわいく見えます。

hirakawa zoological park



レッサーパンダ(2頭 ♂1 ♀1) 平成26年6月12日生まれ



生後2日目

こんな動物

食肉目アライグマ科
分布：中国、ネパール、
インドなど
主食：竹の葉・木の実など

生まれたときは真っ白！

レッサーパンダの赤ちゃんはなんと真っ白！体重は約100g
左が女の子、右が男の子です。

生後16日目



顔に模様が！

レッサーパンダ独特の模様が、顔にうっすら出てきました。
「ピーピー」と元気に鳴いています。

生後38日目



9月20日にデビューが決定！

生育が順調なため、展示することになりました！母親に寄り添う小さなレッサーパンダに会いに来てくださいね！

担当者：堤、峯下

アネハヅル(1羽) 平成26年4月26日生まれ

こんな動物

ツル目ツル科
分布：主にユーラシア大陸の
温帯域
主食：草の根・種子・昆虫など



生後1日目

お母さんにすっぴり

生まれたばかりのヒナは寒さに弱いので、お母さんの大きな翼にすっぴり包まれ休めます。
お母さんとお父さんに守られて、すくすく育ってね。

生後31日目



ツルらしくなりました

すらっと背が伸びて、ツルらしくなってきました。まだ子どもらしい茶色のぼわぼわした羽毛におおわれています。

生後約3ヶ月目



大きくても子供です

成鳥の羽に生え変わり、すっかり大人らしくなりました。独り立ちまであとちょっとです。

担当者：堤、峯下

バーバリーシープ(♂) 名前 ユズキ 平成26年6月11日生まれ



生後直後

こんな動物

偶蹄目ウシ科

分布：アルジェリア、チュニジア、
スーダンなどのアフリカ大陸北部
主食：草、木の葉、果実など

すくすく成長！

出生時の体重は1.8kgでした。しばらくの間はお母さんと一緒に寝室で過ごしました。マントヒヒからちょっかいを出される可能性があったためです。

生後2週間



生後37日目



初めての展示場デビュー

足取りがしっかりしてきたので、ついに展示場デビューです。どこに行くにもお母さんの後をついていきます。この時はマントヒヒにちょっかいを出されてしまい、寝室生活に戻りました…

ついに群れの一員に！

さらに足取りがしっかりしてきたので、2度目の展示場デビューです。やはりマントヒヒからちょっかいを出されましたが、今回は落ち着いており、無事に同居に成功しました。今後の成長にどうぞ期待!!!

担当者：松元、橋口

リニューアル情報

平成21年度よりリニューアル工事を進めています。
現在工事中の施設について紹介します！

世界のツルゾーン

平成26年度秋にオープン予定で現在工事が進行しています。世界中に生息するツルの仲間は全15種類。その内の11種類を飼育展示しています。新しくできる展示場は、それぞれのツルの特徴を見比べることができる配置になっています。



完成イメージ図



チンパンジー展示場

平成27年度春にオープン予定の展示場は、チンパンジーの群れ飼育や行動に配慮した設計になっています。計画当初から飼育員が手作りで縮小模型を製作し、設計を進めてきました。将来的には10頭近い群れを飼育したいと考えています。



完成イメージ図



飼育員が作成した縮小模型

オーストラリア園

平成27年度春にオープン予定のオーストラリア園は、動物たちをより間近で観察してもらえる施設となります。展示場内を歩いて観察できるエリアや、カンガルーやワラビー、エミューなどが同じエリア内で観察できる「混合展示」を予定しています。ぜひ動物の息吹や生き様を五感で感じて下さい！



展示場の造成作業の様子(平成26年8月)



ベネットアカクビワラビー



オオカンガルー



エミュー